

ハンガリー ヴァーツ「日本の日」

ハンガリーの首都ブダペストから北へ35kmに位置する観光都市ヴァーツ(人口3万5千人)。1996年9月から秋田県由利本荘市(人口8万6千人)と姉妹都市関係にあり、1998年にヴァーツ市の中学生が同市を訪問して以来、1年ごとに交換訪問が実施され、由利本荘市から出発するのが6回目となった昨年は15名の中学生がヴァーツを訪れたそうです。またこうした関係があることから、昨年11月25日には同市に駐日ハンガリー大使をお迎えして「ハンガリーデー」も開催されました。この様子は由利本荘市のホームページで「ハンガリー」や「ヴァーツ」と内部検索すると写真と解説を見ることができます。

<http://www.city.yurihonjo.akita.jp/icity/browser>

こうした日本との文化交流が盛んに行われていることもあり、非常に親日的な土地柄のヴァーツ市において、1月8日土曜日に「日本の日」が開催されました。このイベントは「ヴァーツ市」、「ハンガリー日本学生友好協会」、「ハンガリー日本友好協会ヴァーツ支部」の3



たくさんの参加者

組織の共催で行われたもので、開会式には200名以上収容できる会場が満席になるほど盛況でした。

2名のボランティアが紹介したのは「生け花」と「浴衣・着物」。それぞれ師範免状、講師免許を取得するボランティアが担当し、講義と実演を行いました。既にハンガリーの数々のイベントで日本文化の紹介実績を積み上げてきただけに、華道や着物の歴史やルール、しきたり、種



希望者が生け花体験

類などを紹介した説明は素晴らしく、実際に生け花作品や着付けが出来上がっていく過程に多くの人たちが興味深く見入っていました。急な予定変更にも柔軟に対応しながら進めるボランティアは文化発信のプロと言えます。紹介後質問を受付けたところ、「床の間はどこにあるのか」、「花の色に意味はあるのか」、「帯と袖の長さはどのくらいか」、「着物にポケットはあるのか」、「着物の柄に決まりはあるのか」など興味深い質問がたくさん寄せられました。この日は参加者からの称賛を得ただけでなく、会場の館長やヴァーツ市役所のイベント運営委員の方からも讃辞と感謝の言葉をいただきました。



着物の説明をするボランティア

会場ではこの他、由利本荘市の子どもたちの絵画や交流を通じて入手した日本人形や扇子などの展示、空手演武や折り紙コーナー、ハンガリー人による「日本食」に関するプレゼンテーションのほか、そろばんワークショップもあり、子どもたちがそろばんに熱心に取り組んでいたのが印象的でした。



そろばん ワークショップ

本イベントを企画運営した学生友好協会の会長(兼友好協会ヴァーツ支部長)によると、由利本荘市との交流で日本に行ったことがある人は必ず日本ファンになって戻り、こうした催しに労を厭わず協力してくれるとのことでした。ハンガリー人によって日本紹介の場が設けられ、日本文化発信の担い手が育っていることから、同市でこうした催しが継続して実施されることが期待できることは嬉しい限りです。ボランティアを市内名所巡りに案内してくれるなど、主催者の謝意と誠意が存分に感じられ、協力したボランティアもおもてなしの心に感動したヴァーツ訪問となりました。

(企画開発課 日本文化発信プログラムチーム)